

新中学校の学校像（修正案）

1 新中学校が目指す教育

（1）はじめに

勝山市では、小中の教職員が連携して授業改善に取り組み、確かな学力の育成・深化を進めています。英語教育では、全国に先駆けて取り組んできた小学校英語を基礎として、小中高が連携した授業に取り組んでいるほか、タブレット端末を積極的に活用し「楽しく分かる授業」を実践しています。また、全小中学校がユネスコスクールに加盟し、「恐竜溪谷ふくい勝山ジオパーク」に認定されたふるさと勝山の豊かな自然・文化・歴史などを題材に、「環境教育」や「ふるさと学習」にも積極的に取り組んでいます。

令和の時代は、情報技術などの先端技術が急速に発展し、生活様式や社会が大きく変化していく予測困難な時代とされています。この令和の時代において、学校教育には、一人一人の子どもが自分のよさや可能性を認識するとともに、多様な人々と尊重し合い、協働しながら社会の変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の担い手となる資質能力を育むことが求められています。

このような資質能力を育んでいくためには、知識や技能を身に付けるだけでは十分でなく、それらを活用して地域や社会の課題に取り組む探究的な学習や、同学年や異学年をはじめ他校種のより多くの児童生徒や、企業・地域の方々など幅広い年齢層の人々と積極的に交流したり活動したりする学習を進めることが必要です。

一方で、今後も少子化が見込まれる勝山市においては、生徒数の減少に伴い学校規模が小さくなってくると、きめの細かい丁寧な教育を進めることができる反面、生徒の人間関係の固定化や、集団活動・協働的な学習の制約、部活動の選択肢の減少などの課題が生じるほか、教職員の減少に伴ってバランスのよい教員配置が難しくなったり教職員の校務負担が増加したりするなどの課題も生じ、学校全体の活力の低下が懸念されます。

（2）新中学校を勝山型 18 年教育の中核として

今後、子どもたちに身に付けさせたい資質能力や少子化の進行を見据え、勝山市の子どもを持続可能な社会の担い手として育てていくため、誕生から 18 歳成人に至るまで市民総がかりで（市民のご理解ご協力のもと）切れ目なく支援し、最大限の教育効果を上げる新しい教育システムを構築していくことが必要です。

このため、新中学校が今後の勝山市の教育の中核施設となるよう新校舎を勝山高校の敷地内に建設し、ジオアリーナや長山公園グラウンドも含め一体的に活用する新たな文教ゾーンを整備します。この充実した教育環境の中で勝山高校との連携型中高一貫教育を新たに導入し、高校生や地域の多くの人々と関わる教育を通して、中学生がふるさと勝山に愛着をもち、将来の夢や目標に向かって生き生きと成長することを支援する学校づくりを推進します。

さらに、中高の連携を小学校や特別支援学校にも広げ、学校間の連携をより強化して、これまで勝山市が進めてきた教育をさらに高みへと充実・発展させて、勝山の子どもが勝山で学ぶ優位性をより一層高めていきます。

連携型中高一貫教育を通して新中学校が目指す教育のねらい

- 中学生が将来の目標に向けて視野を拓げ、学習意欲の向上を図るため、生徒会活動や部活動などを通して高校生と多様な交流・活動を行い、高校での学習や生活に見通しを持つ。
- 中学校段階の学習の理解をより深化させ、学力の向上を図るため、高校の教員が中学校の授業にチームティーチングで参加し、高校の学習に接続する指導を実施する。
- 中学生が地域と連携した探究学習をより充実させ、課題解決能力や論理的思考力、情報発信力などを育むため、勝山高校が推進する探究学習に触れ学ぶ。
- 中学生の主体性やコミュニケーション能力などを向上するため、高校生の自主的・主体的な活動に触れたり、ともに取り組んだりする活動を実施する。
- 中学校の1学級の人数は、本県独自の規準（32人）によって国の基準（40人）よりも少数で編成し、きめの細かい教育を進めるとともに、学校全体としては適正規模の学級数とし、多様な生徒集団の中で互いに切磋琢磨し、様々な集団活動を通して豊かな情操や自己肯定感、他者への思いやり、社会性や人間関係を構築する力などを育む。
- 新校舎を高校の敷地内に建設することで、中学校と高校の交流や活動を時間的・地理的な制約を受けないで実施し、教育効果の高い中高連携を進める。
- 様々な交流・活動や授業などを通して、中学生と高校生および教職員同士の繋がりや信頼関係が深まり、勝山高校への進学者増や勝山高校の学力向上に結び付ける。
- 勝山市にキャンパスを設置する予定の福井県立大学恐竜学部(仮称)と連携し、中高生の探究学習の充実・深化を図る。

2 目指す学校像

・「新しい時代に生きる力を育む学校」

自ら考え、他者と協働しながら課題を解決していく主体的な学びを支援する学校

・「夢や希望の実現を支援する学校」

個性や能力を伸長し、目標に向かって自ら粘り強く挑戦することを支援する学校

・「ふるさと勝山への誇りと愛着を育む学校」

地域とつながり、豊富な体験活動を通してふるさと勝山の学びを支援する学校

・「安全・安心で保護者や地域から信頼される学校」

互いに認め合い尊重し合って、生き生きと学校生活を送ることを支援する学校

3 目指す生徒像 4つのC

- | | |
|------------------------------|---------------|
| (1) 何事にも自信を持って粘り強く挑戦し学び続ける生徒 | Challenge |
| (2) 多様な他者と協働し主体的に考え行動する生徒 | Collaboration |
| (3) 自分と他者のよさを認め尊重し関わり合う生徒 | Communication |
| (4) 自分らしい生き方を考え将来をデザインする生徒 | Career |

4 新中学校における特色ある教育内容

(1) 高校教員によるアシスト授業

- 中学3年次の数学と英語の授業に高校教員がチームティーチングで参加
 - ・3年生全クラスで実施
 - ・高校の学習に見通しが持てるよう興味関心を喚起する内容を中心に実施
 - ・中学校の学習内容の定着深化をサポートし、理解度に応じて発展的な内容を指導
- 中高の学習指導の相互理解により、中高教員の指導力をさらに向上

(2) 探究的な学習

- ふるさと勝山の自然、文化、歴史、産業、食などをテーマに探究学習を実施
ジオパーク学習をベースに、SDGsを踏まえたESD教育を推進
- 勝山市や地域の活動等に参画（中高生合同での取り組みも実施）
学習成果は、発表会、市長への提言、HP等により積極的に情報発信
- 地域探究センター（仮称）を設置し、地域、大学、企業等との連携活動を推進
- 中学生の学習に高校生が助言したり、中高合同の発表会等を通じて学習内容を深化
- 高校の探究学習に触れることで、視野を拡げ、探究スキルを向上
- 中学生に指導助言することで、高校生の資質能力も向上

(3) ライフデザインタイムの設定（キャリア教育）

- 自分らしい生き方や、将来の目標を考える学習活動や体験活動を系統的に実施
適性検査、職業調べ、学問調べ、職業人ワークショップ、中高生が語る会
商・工・農・福祉・保育体験、14歳の挑戦、高校体験入学、など
- 生徒が興味関心に応じて主体的に学習を進め、自分の可能性を拡大
- 高校の教員をはじめ大学や民間企業、地域の方々など外部人材による授業も実施

(4) 学校行事・特別活動・部活動

- 中高生が語る会などを開催し、高校での学習や将来の夢や希望の実現に向けて意欲を向上
- 生徒会活動など高校生の自主的な活動に触れ、中学生の主体性や社会性を向上
- 合同練習が可能な部活動では、高校レベルに触れてスキルを向上

(5) ICT機器の効果的活用

- プロジェクターを多数設置するなど校内のICT環境を整備
- 様々な活動でタブレットを積極的に活用し、プレゼンテーションや情報発信を推進
- オンラインによる国内外の学校等と交流し、英語の学びや探究学習等を充実